

ANSES(フランス食品環境労働衛生安全庁)との意見交換

2015年5月、食品安全委員会の姫田事務局長らがANSESを訪問し、意見交換を行うとともに、今後の連携強化を確認しました。

食品安全委員会は、近年、EFSA(欧州食品安全機関)やFSANZ(豪州・ニュージーランド食品基準機関)をはじめとする海外のリスク評価機関との連携強化を図っています。2014年4月には、フランスのリスク評価機関であるANSESからモルテユルウ長官が来日して初の意見交換を行い、11月にはリスクコミュニケーションの国際セミナーへ専門家を招へいしました。

2015年5月20・21日、食品安全委員会から姫田事務局長らがパリのANSESを訪問し、両機関の組織運営や、個別のリスク評価案件(ビスフェノールA、BSE等)について情報と意見の交換を行い、重金属・微生物に関する研究所を視察しました。意見交換は真剣な中にも和やかなムードで行われ、食品安全委員会からは特に、EFSAとANSESの役割分担、評価結果が異なった場合の対応など、EU特有のリスク評価体制に関し、質問しました。また、今後の両機関の連携強化について互いに確認し、人材交流や情報共有を促進するため、協力文書を締結することで合意しました。



▲ANSESの会議室で意見交換を行いました。

ANSESとは

フランスの食品環境労働衛生安全庁。健康、安全問題を担当する各機構をサポートするために、食品、環境及び職場のリスク評価を行う機関。健康・農業・環境・労働・消費者問題省の傘下にある。

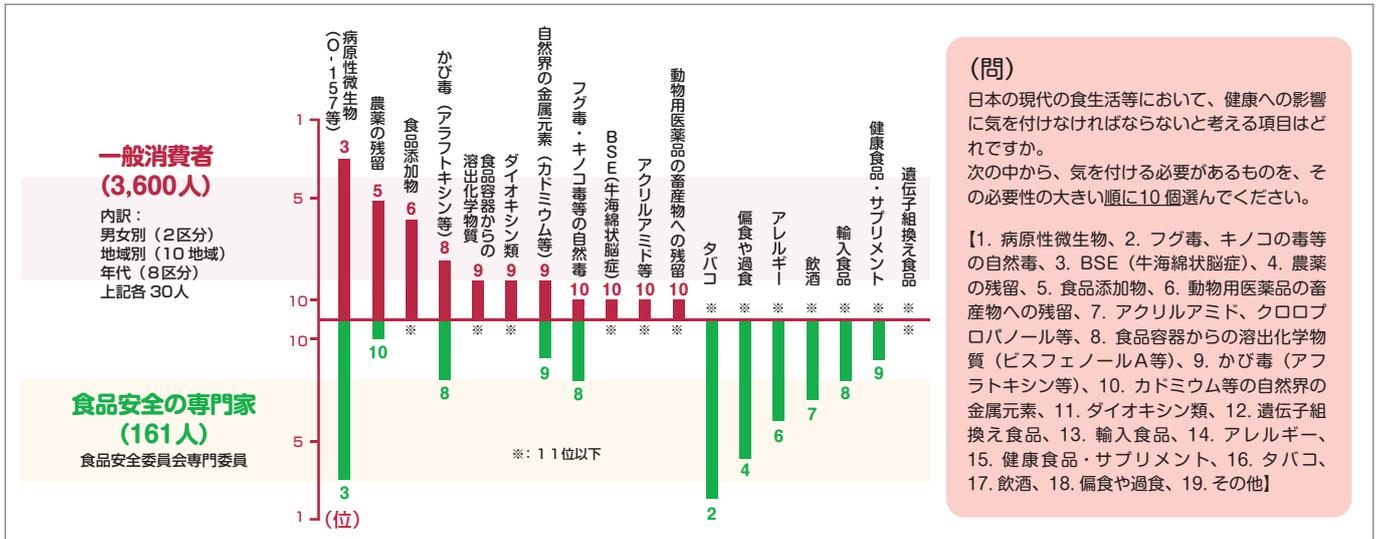
リスク認識のアンケート調査

食品安全委員会では、これからのリスクコミュニケーションに役立てるため、食品に対するリスク認識についてアンケート調査を行いました。

2015年2月から3月にかけて、全国の一般消費者3,600人と食品安全の専門家(食品安全委員会専門委員)161人を対象に、アンケート調査を行いました。「健康への影響に気を付けるべきと考えるものは?」「がんの原因になると思うものは?」などの質問をして、専門知識の有無による違いに着目してまとめた結果を5月に公表しています。

「健康への影響に気を付けるべきと考えるもの」については、病原性微生物やかび毒へのリスク認識は、専門家と一般消費者には大きな違いはありませんでしたが、偏食や過食、アレルギー、飲酒、輸入食品、健康食品・サプリメントについては、専門家の半数以上がそれぞれ4位、6位、7位、8位、9位以上と回答したのに対し、一般消費者はすべて11位以下でした。

一方、食品添加物、食品容器からの溶出化学物質、ダイオキシン類は、専門家の半数以上が11位以下と回答しましたが、一般消費者はそれぞれ、6位、9位、9位以上と回答するなど、違いが見られました(下図)。



健康への影響に気を付けるべきと考える項目の順位(中央値*)

*全サンプルを大きい順に並べ替えたときの、ちょうど真ん中のデータのこと。たとえば、病原性微生物については、一般消費者3,600人の回答を1位から順番に並べ、ちょうど真ん中の1,800.5人目(1,800人目と1,801人目の平均)の回答が3位であった。すなわち、一般消費者の半数以上が1位から3位と回答したことを意味する。

詳細は下記URLをご覧ください。



食品に係るリスク認識アンケート調査について

http://www.fsc.go.jp/osirase/risk_questionnaire.html